日蓮宗　常栄山
本照寺だより

第38号
厚木市下古沢133
TEL・046-247-1156
FAX・046-247-1156
振替・0230-7-35749
（加入者名・本照寺）
発行所
本照寺・須藤教裕（きょうゆう）

盛大なお会式（え）を奉行することができました

ありがとうございます

■日蓮聖人、第７２９回目のご命日（10月13日）に対し

前列総代４名、世話人総勢21名

ました、本照寺では第３土曜日の10月16日午後２時からお稚児さんと共に、「ご報恩会式」として法要を執り行うことができました。夜７時からは「中分」、また「立正佼成会厚木教会」からの万灯奉納もいただき、夜店12軒のにぎわいの中、楽しい一夜を共々に過ごすことができました。総代世話人さん21人を始めご奉納者１２８名、また関係各位に深く御礼申し上げます。

㊧中分万灯奉納　㊨立正佼成会万灯奉納

かわいいお稚児さん

毎朝、蛇口をひねれば水が出るって…はい、当たり前…ですね。でも、そんな中でも「ありがとう」って言える場所って、実は一杯あるんですよ～！

■「コンビニで『ありがとう』って言おうね…」「レストランに行ったら5回は『ありがとう』って言えるよ…」

これは「一泊お山しゅぎょう」でのひとコマ。そう、コンビニ（に限らず）は色々な人々の手によって作られている。先ず土地ありて、店舗を建てる人。そしてその中に収める商品は様々な人々の手によって育てられ、或いは作られ、また運ばれ…更に電気設備の照明…冷蔵庫、エアコンを造る会社。またそれらの電力をおぎなう会社。そして経営に関わる人やアルバイトの店員さんなどなど…

■私たちは実に多くの人々の存在によって、初めて「商品を買う」ことができる。だから、「お金があるから買えるんじゃないんだよ」

それって、当たり前かな～？

「関わりの中で初めて生活ができるんだよ」と説明し、子どもたちに「ありがとう」の言葉を喚起する。

■９月下旬、北アルプスへ登山した（編集後記参照）。やはり思う。登山道を整備してくださる方々の苦労や「思い」を。たとえそれが報酬行為の範疇（はんちゅう）であっても、「お陰さま」を思わずにいられない。そう、「当たり前」でなく、その労力と「思い」に感動と感謝なくして**山は登れない**。

■そうなのだ、「当たり前」では気付くことはできないはず…コンビニで買い物ができる…食事ができる…住む家…家族…更に言えば太陽、風、雨、そして水…想像力とは「当たり前」をひっくり返し、**それらをどれだけ深く味わうか**、ということ。

感謝を感じるためには、想像、思いやりがなければ。地球環境に反する浪費…それは想像力、思いやりの欠如に他ならない。

最新型パソコン

★メイド・イン・ジャパンの最新型パソコンが発売され、テレビＣＭではこう宣伝された。「このパソコンを使えば、あなたの仕事は半分になります」。それを聞いていたイタリア人が、ポツリとこうつぶやいた。「明日、このパソコンを２台買おう」

「続・世界の日本人ジョーク集」
早坂　隆・中公新書

人の良い日本人

★「日本人は、それがウソだと立証されるまで人の話を信じ続ける。中国人はそれが本当だと立証されるまで人の話を信じない」

中国の日本企業で交わされる会話

■また、退任された杉本辰雄総代、坂本実総代の後を受け（お２人には心から感謝申しあげます）、新しい総代といたしまして福住八郎さん、横谷正春さんが推薦、承認されました。また現任の頼住博司総代が筆頭となり、更に難波賢司総代、世話人さん一同、どうぞ、今後とも本照寺のためにお力添えをくださいますよう、お願いいたします。

除夜の鐘

■言わずもがなの12月31日、午後11時45分に第一鐘を住職が突き、以後、お参りの皆さんが順次、鐘を突いて新年を迎えます。

住職は本堂にて新年のお勤め中ですので、順次のご参拝をお願いします。暖かい焚き火を用意してお待ちしています。

常栄山・本照寺から響きわたる、鐘の音…

新年初参り

■１月１日、午後２時からは「新春盛運祈願会」が執り行われます。

お檀家の皆さんはもちろん、お守りをお持ちでない方も、皆さんどうぞ新年のお目出たい中で、新たなスタートを心に込め、ご参拝くださいますように。

（毎月１日の祈願会は午前９時からです）

新年のお札

■このたびお届けいたしましたお札ですが、「御守護札」は玄関出入り口の**「外」**にお貼りください（昨年までは「外または内」としていましたが、今後は「外」といたしましょう）。

また台所へ貼るお札「三寶大荒神札・さんぼうだいこうじんふだ」は本照寺本堂内・お賽銭箱右側に置いてありますので、ご希望の方は本堂にて**ご自由に**お持ちください。

また「日蓮宗暦（こよみ）」につきましては適宜、ご利用ください。

■古いお札は本堂前の「お焚きあげ箱」へどうぞ。12月20日から本堂前へ設置いたします。本照寺以外のお札類でも結構です（無料）。

■総代世話人・聖徒団の新年会は追ってお知らせいたします。役員皆さんのご参加をお待ちしております。

気になる木　3

■サルスベリは中国南部原産のミソハギ科の落葉中高木。

開花は８月頃で、長く紅の花を咲かせるので百日紅（ひゃくじつこう）とも言います（百日は無理ですが80日は咲いていました）。

■サルスベリの名は幹（みき）の肥大成長に伴って古い樹皮のコルク層がはがれ落ち、新しいすべすべした感触の樹皮が表面に現れて、猿が登ろうとしても滑ってしまうから（実際にはもちろん、簡単に登ってしまいます）。

■江戸時代に日本に入り、日本に野生するヒメシャラ、ナツツバキ、リョウブなども樹皮が似ているのでサルスベリと呼ばれました。

■樹齢は２００年ほど？また結構背が高いのでその存在に気付かない人もチラホラ？

「子供を不幸にする一番確実な方法は、いつでもなんでも手に入れられるようにしてやることだ」ルソー（仏）

私たちのお寺は

宗　派・日蓮宗
ご本尊・大曼陀羅【だいまんだら】
ご本仏・久遠実成本師釈迦牟尼仏【くおんじつじょうほんししゃかむにぶつ】
総本山・身延山久遠寺【みのぶさんくおんじ】
宗　祖・日蓮大聖人
経　典・法華経
主に唱えるもの・開経偈～方便品～自我偈～お題目～宝塔偈

「本照寺」のホームページは日蓮宗本照寺で検索してください。

この「本照寺だより」が届かない家はお檀家登録がされていません。
墓地があっても「本照寺だより」が届かない方はお知らせください。

結婚式のスピーチで　どよめきと拍手

ウケない話の最たるものは、説教臭い話でしょう。結婚披露宴でも恩師や新郎の上司のスピーチは長引くものですが、長くしている主たる原因は説教調ゆえ…　説得力を持たせようとして人生の教訓を語ろうとするので、どうしてもくどくどとなり、聞いているほうはシラケてしまいます。

「ウケる」話材・近藤勝重　三笠書房から

■いかに恩師のスピーチであっても、披露宴の参列者にはタダの人、説教したいのなら「個人的にやってほしい」が本音であろう。

上司の長話の典型は、会社の概況まで語られる場合だ。会社案内のパンフレットを読んでいるようなスピーチにつきあわされてはたまらない。

説教の効果は時間の長さに反比例する、とは河合隼雄氏の言葉だが、そういう話に出てくる四文字熟語とか、「比翼の鳥」「連理の枝」や「夫婦生活は長い会話である」とかも、聞いていて疲れる。

だいたい四文字熟語ほど内容に乏しいものもない。披露宴スピーチの常套語も、「**またかいな**」、と思ったとたん、聞く意欲を失う。

■上司のスピーチで、「主賓の話は短いのにかぎります。心をこめて新郎○○君！　新婦○○さん！　本当におめでとう！　以上です」とやったところ、会場からウォーというどよめきと拍手が起きた、と、ある司会者が話していた。そうでしょう、そうでしょう。これは長くなるぞ、と思っていたところ、意外や意外、こんなに短いとは！　拍手のひとつもしたくなろうというものだ…

葬儀での初七日について

◆10年ほど前、葬儀の流れは次のようでした。通夜～葬儀（告別式）～荼毘式～収骨（お骨あげ）～初七日～お斎（忌中払い）。
◆しかし、近年では初七日を葬儀（告別式）に付けて行う（付け七日）ことが増えています。時間の節約（参列者への配慮）や式全体の簡略化などによるものでしょう。
確かに、初七日の式自体は10分ほどですが、法話や式前後の人の集散などを含めますと、30分程の違いはあるでしょう（付け七日ですと、初七日式の10分ほどが上乗せとなります～法話と人の集散が省かれます）。
◆「初七日はどのように？」は、葬儀屋さんからの問いかけにて初めて知る所となるようですので、皆さんも予めのお心入れをお願いしたいと思います。
◆往時は死後７日目に行われていた初七日が現在のような流れに移行したことを考えますと、本照寺としても特別なこだわりはありません。適宜ご判断くだされば幸いです（付け七日の場合は荼毘式を終えましたら失礼させていただき、ご収骨は皆さんでお願いしたいと思っています）。

あの時、困っていた人」

年に2日間、私は「歳末助け合い運動」などで駅前（本厚木や小田原、平塚）に立ち、集まった寄付金を社会福祉協議会へ届けます。そしてそれは有用に使われると思うのですが、残念ながら住民登録がされていない（住所がない）方々へは届きません。そう、近年多い「インターネットカフェ難民」として日々ギリギリの生活を送る人や、すでに路上生活をしている方々には届かないのです。そこで、東京などではNPO法人や宗教団体などが焚きだしを行ったりするのですが…今回は、「あの時困っていた人」として私の思い出から少し…

■私が小中学生のころ、「おもらいさん」がよくやって来た。

そんな時、両親はよく百円ほどの金銭をあげていたように記憶している。実は、今でもお寺にはこういった方々が時々お見えになる。

「東北へ帰る電車賃を…」などと懇願する人が多く、「これから帰る実家の住所です。必ずお返しします」といったウソをつく（なぜって…戻ったためしなし）。

電話番号まで書く人もいた。しかし確認の電話は、しない。せめて食事代にでもなればなどと、つい、千円を…

北アルプス・写真㊨の左奥に剣岳（つるぎだけ）。写真㊧は3日目、白馬岳からの下山中。

編集後記など

■12月の今、今夏の暑さを実感するのは難しいが、就寝時のエアコン、皆さんはどうであっただろう。「そりゃつける」、または「いらない」。本照寺近隣では察するに半々、といったところか？　一方、町中ではつける派が大半だろう。本照寺は涼しい？　ので住職家族は昼夜を問わずつけないが、「熱中症にて…」といった方の何と多いこと…で、環境次第でエアコンは必需品に。

■しかし、実は私たちが「幸せ」を感じるのは『不幸』を越える時。そう、『暑さ』の先にある「涼しさ」、『寒さ』の先にある「暖かさ」、『空腹』の先にある「おいしさ」、『病気』の先にある「健康」、『貧困』の先にある「豊かさ」、『不自由』の先にある「自由」等々。故に夏の先にある「秋」を例とすれば、より暑い夏の方が、秋の喜びは一段と大きいはず…冬～春も然り。しかし現代は『貧困』経験の無い「豊かさ」であり、『不自由』経験の無い「自由」なので、それらは恐ろしいほど当たり前となってしまう。■今、空前の山ブーム。そんな中での9月下旬、2泊3日にて3千メートル級・北アルプスの白馬三山・鑓ケ岳～杓子ケ岳～白馬岳を縦走（じゅうそう・尾根ったいに山頂を踏む）した。写真㊤。そして思う。『辛』さの先に見えてくるもの、それはやはり「幸」なるかな…と。よく似ている字、辛と幸。辛に字画を足すと幸となる？

あ…そうそう、「禅の僧侶になりたい」との若者を、小田原の大雄山・道了尊まで送ったこともあった、なぁ…

■**私の生活は檀信徒の方々からの尊いお布施で成り立っている。**故に私も僧侶として、宗教者として、本当に困っている人のためなら、その尊いお布施を以て施してあげたい。しかしいかんせん、今でも「どこそこに婦るから交通費を貸してほしい」という言い訳が一番多い。そんなことで、この20年ほどは草引き（草取り）や階段の掃除を一時間ほどしてもらい、幾ばくかの金銭を手渡すようにしている。

あ、そうそう…昨年、路上生活をする方を3日間預かり、七沢温泉できれいさっぱりとしてもらい、数日後、「お陰で『相模興業』？へ泊まり込みで就職が決まりました！」と喜びの報告を受けたのだが、貸していた自転車はやはりと言うべきか？　戻ることはなかった。

また、母子家族、夫婦、老婦人といった方々の生活保護受給の手伝いもした。車庫の2階に住んでもらい、そこを「住所」として申請し、生活保護を申し込む（住所が無いと受給は不可能）。

■「バカ」は重々承知しているのだが…つい、してしまう…そういえばまた思い出した…「自転車のタイヤがパンクしたので修理代を貸してほしい」と言われたのだが、パンクの修理をしてあげたことが2回あった（実際、パンクしていた）。しかし、これらもお寺との「何かの縁」かと思う。そんな気づかい？　も、巡り巡ってきっと何かの役に立つことだろう、きっと…